

# 令和6年能登半島地震における医療救護活動 (日赤 災害医療コーディネートチーム・救護班)

令和6年1月1日夕方に発生した能登半島地震は最大震度7を観測し石川県を中心に甚大な被害をもたらしました。長岡赤十字病院では、直後に約200人の職員が登院し、入院患者さんの安全確認、自施設の被災状況や被災地の情報収集等を行いました。

発災後も継続して新潟県、日本赤十字社新潟県支部と連携を取りながら情報収集等を行い、石川県内に日赤災害医療コーディネートチームを3班、救護班を5班 延べ45人を派遣、災害救護活動は3月初旬まで長期間に及びました。

## 日赤災害医療コーディネートチーム

石川県内各地の保健医療福祉調整本部において、県や他団体との多岐にわたる連携や調整、救護班の派遣調整、様々な情報管理の「コーディネート」を行いました。

- ◆第1班 1月 9日～1月11日 (医師1名、看護師1名、主事2名)
- ◆第2班 1月25日～1月31日 (医師1名、看護師1名、主事2名)
- ◆第3班 2月14日～2月20日 (医師1名、看護師2名、主事1名)

## 日赤救護班

石川県珠洲市において、避難所巡回診療、日赤救護所の運営等を行いました。

- ◆第1班 1月 7日～1月11日 (医師2名、看護師2名、主事1名)
- ◆第2班 1月19日～1月23日 (医師2名、看護師3名、主事2名)
- ◆第3班 2月 9日～2月13日 (医師2名、看護師3名、主事2名)
- ◆第4班 2月17日～2月21日 (医師2名、看護師3名、主事2名)
- ◆第5班 2月26日～3月 1日 (医師2名、看護師3名、主事2名)



〔救護班巡回診療の様子〕



これから先も必ず起こる大災害。

ひとりでも、多くの人を救う。救うことを、つづける。

わたしたちは、苦しんでいる人たちを救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康・尊厳を守ります。